

日本経済の見通し

―デフレ継続か、金融抑圧か、高インフレか、それともハッピーエンドか

BNPパリバ証券チーフエコノミスト
河野 龍太郎

- * 調整局面の新興国バブル
 - * 中長期で続く米国の資産価格上昇
 - * ルイスの転換点を通過した中国
 - * 中国は不動産価格高騰の回避に動く
 - * 中国の若年男女比に極端な歪み
 - * 実質為替レートは超円安
 - * 本質はマネタイゼーション政策
 - * 金融抑圧政策の第一歩
 - * ハッピーエンドの確率は10%
- * 信頼に足る財政健全化が重要



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は久しぶりに河野龍太郎さんにおいていただきました。アベノミクスが話題になって、そろそろ10カ月になります。リフレ派一色のよくな世界になっていきますけれども、河野さんは当初からたいへん批判的にいろいろ発言されてきました。先ほどお聞きしたら政府からも大きなところはお呼びがかからないようです。しかし、批判的なことに耳を傾けないといい政策はできませんから、そういう意味ではちよっと問題かなという気がいたします。ここ秋口まで政策は順調に走ってきておりますけれども、これからインフレーターゲットがうまくいって、どうなるのかというところは、誰も明確なことはおっしゃらないですね。政策当局もそこまで見通

しているのか、いないのか、そこら辺も含めたお話も伺えると思います。ぜひじっくり耳を傾けていただきたいと思います。

それでは河野さん、よろしくお願いいたします。（拍手）

河野 皆さんこんにちは。BNPパリバの河野です。よろしくお願いいたします。

今、政府の大きなところから声がかからないというご紹介がありました。ただ、ほとんど省には今も行っています、やはり健全な考えを持っている方もいらっしゃるのです。（笑）「河野さんぐらいは意見を変えないでください」と言われます。某役所からも「社長が代わっちゃったから、われわれ表立って応援することはできないのですが、だけど意見は変えない